片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL　0258-84-3246
FAX　0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬滌氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

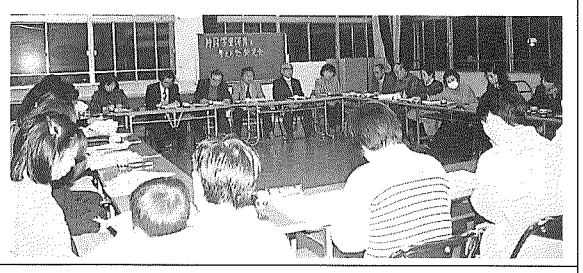
片貝町の関係者等が動く
学童保育7月開始へ準備
専任指導員を募集中

「片貝学童保育を考える会」の発足会が去る1月30日(火)午後7時30分から30名前後の関係者が出席して片貝町公民館2階ホールで開催され、7月に開始する予定で準備を進めている。

当日の出席者は安達稔市議、吉原正幸市議、五十嵐愛子教育委員を初め、片貝小学校から福原博夫校長、安達学PTA会長、片貝保育園から佐藤有為子園長、安達高子あおぞら会会長、片貝町福祉会から吉原幸至会長他3名、そして現在各町内で活躍中の民生児童委員全員と準備委員が出席、それに市からは健康福祉課の児童係の職員が出席して学童保育について小千谷市の現状説明を行なった。

それによると学童保育の目的は、昼間保護者が就労等により放課後の面倒を見てくれる人のいない家庭の小学1年生から3年生までの児童に安全な生活の場を与え、健全な育成を図ることとされており、現在小千谷市では2つのクラブが活動している。

西地区は「そよかぜクラブ」が市民体育館を利用し、加入児童数は43名で、保護者負担金は一ヶ月三千円。東地区は「にこにこカービィクラブ」が白寿荘を利用し、加入児童数は24名で、保護者負担金は一ヶ月四千円で、夏休み8月は両地区とも保護者負担金は倍額以上となっている。また、両地区ともクラブ開設時間は平常授業の日は下校時から午後6時頃まで、夏休み等の長期休暇は午前8時30分頃から午後6時頃までとなっている。学童保育は学習塾ではないので、両地区のクラブも遊びを主とした運営で、専任指導員一名とパート指導員数名がいる。また千谷地区でも学童保育については現在準備中。



学童保育は保護者が中心となってクラブを運営し、運営費は保護者負担金と市の補助金の合計額で行なうことになっており、補助金交付対象は1クラブにつき加入児童が10人以上で、1日3時間以上、年間30日以上実施した団体。補助金額は市長が定める単価×クラブの年間総開設時間×50%が交付される。…等の説明を聞き、質疑応答が交わされ「片貝学童保育を考える会」の今後の活動予定が次のとおり発表された。

▽2月＝保育園年少～小学3年生までの保護者に、学童保育の意識調査アンケートを実施
▽3月＝同アンケートを集計し、片貝学童保育を考える会を開催
▽4月＝片貝小学校で保護者の説明会を開催
▽5月初＝学童保育利用希望者の募集
▽5月末＝保護者会の設立
▽6月＝保護者会の規約等を決める
▽7月＝学童保育開始

片貝学童保育を考える会の代表高橋良子さんは「これからの検討事項として、利用場所の確保、指導員先生の確保（専任1名、パート2～3名）、必要物品などのリストアップ（予算）等がありますが、中でも専任指導員先生の確保が非常に難しく、町民の皆さんからの適任者の情報等のご協力をよろしくお願いします」と語っていた。

なお、片貝学童保育を考える会では専任指導員先生とパートの方を広く募集している。また、学童保育に関心があって、ボランティア活動の出来る方、その他詳しいことに付いての問い合わせは左記の学童保育を考える会の会員へ。

▽連絡先＝高橋良子（四之町☎84－3590）野中恵美子（四之町☎84－2948）佐藤公子（二之町☎84－2409）

主張

不祥事つづき

このところKSD（中小企業経営者福祉事業団）にかかわる汚職や政界工作をめぐる疑惑、また外務省前外国訪問支援室長の機密費流用、福岡地検の判事妻に対する馴れ合いとしか取れない一連の動き等々枚挙に暇がない。そういえば昨年も理解に苦しむような東海村のバケツによる臨界事故、神奈川、新潟をはじめとする各県警の綱紀の緩みとしか考えられない失態の数々、その他中央や地方を問わず連日マスコミを賑わす汚職や贈収賄事件。戦後五十年も半ばをすぎいろんな面で制度疲労をきたしているとしかいいようがない状態で、一体この国はどうなってしまったのかと呆れるばかりである。

ことに国の根幹をなす外務省の機密費と称されるものがどういうわけか表沙汰になってしまい―もちろん流用などされてはならないが―わが国の存立を左右しかねない事柄がいとも簡単に暴露され、機密はおろかその内容にいたるまで白日の下にさらされようとしているのに、そのことについては少しも問題視されず、当事者たるたかだか室長の松尾某の競争馬やマンション購入といった瑣末の事柄に汲々としている姿は、どうみても国家の体をなしていない。

いま一向に改善しない景気動向も金融界を取り巻く不良債権が要因だといわれているさなか、信用問題を最重要とする銀行でさえこの手の話に事欠かず頭取が逮捕されたり、医総監や赤十字社社長をつとめ、最後は子爵までのぼりつめた石黒忠悳は便箋一枚たりとも公のものは使用しなかった。個人的に使用する場合は常に傍らに自分の名入りのものを置きこれを使ったという。たかが紙一枚というが、普段から無意識のうちに公私の別を疎かにすることを常に戒めていたものと思う。彼らは公私というものをはっきりと峻別していたわけで、だれ切った現今の人たちと違う明治人の清廉潔白さをひしひしと感ずる。

要は公私の区別をどう持っているかで自分の持ち物以外、金や物品にいたるまでこれすべて人のもので勝手に使用してはならないという強い観念がなければならない。仲良しグループや数人の趣味の会などで会費により運営されているならともかく、たとえ小額でも寄付金や第三者の金を扱うことになれば当然それなりの報告や手続きを踏む必要がある。痛くもない腹をさぐられる恐れさえある。誰もが正正堂堂と生活したいものである。

政治家にとどまらずとかくその立場になると、裸の王様ではないがものが見えなくなるといわれている。これら一連の不祥事を他山の石として常に反省の心を養いたい。

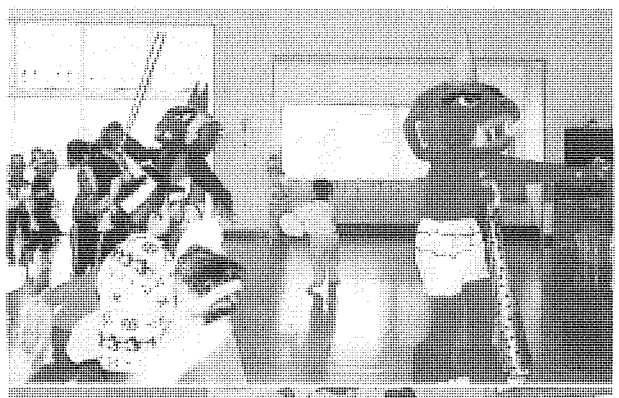
新潟中央銀行の例もある。幸いにもこの片貝ではこうした話を聞かないが、小は各地区農協金融の出先から大は都市銀行にいたるまであらゆる場所で不祥事が起っており、何かが狂っているとしかいいようがない。

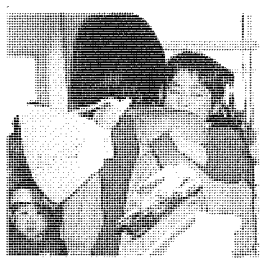
歴史をひもとくと明治から昭和にかけて活躍した片貝池津出身で陸軍軍

鬼が恐いよ～
保育園で豆まき関係
デイホームにも豆を贈る

片貝保育園（佐藤有為子園長）では毎年恒例となっている節分の豆まき行事を去る2月2日(金)午前10時から片貝保育園内で行なった。

会場には年少組から年長組の園児たち全員が鬼の面をかぶって集まり、節分豆まきの紙芝居を見たり、「豆まきの歌」、「鬼退治の歌」等元気よく唄い、豆をまく練習を全園児が元気よく行い、先生が扮するぬいぐるみの赤鬼・青鬼が登場すると子供たちは「鬼は外」と元気よく鬼をめがけて豆を投げていた。なかには鬼が恐くて、先生のうしろで泣きだす子や先生に抱っこされて泣いてる年少組の子供もいた。子供たちの投げた豆で鬼が退散すると、福の神様（園長先生他2）が表れ「今赤鬼と青鬼は退散しました。今度は福豆を沢山拾って、自分の心の中にいる、意地悪鬼や泣き虫鬼を退治しましょう」と福豆まきが始まり、園児たちは元気よく、各人が持参した袋イッパイになるまで、福豆を拾っていた。





また、この日吹雪の悪天候のなかにもかかわらず、午後1時から年長組の園児22名は福豆を持参して、今年初めてデイホームかたかいを訪問した。永寿荘には寺町ヤヨイ会の15名の人達が待っており、先生が「まもなくピカピカの一年生になる子供たちです」と紹介、園児たちは自分の名前を元気よく大きな声で言った後「カレンダーマーチ」、「雪となかよし」、「豆まきの歌」等の歌を披露。その後、佐藤園長先生の福の神を呼び入れ福の神様のまく福豆を拾ってお年寄りたちの袋に入れてやったり、おじいさん、おばあさん達とお話しをしたりして、楽しいひとときを過ごしていた。

片貝小の2年生も慰問
カルタや折紙遊びで楽しむ

片貝小学校2年生35名が去る2月1日(木)午前10時30分からデイホームかたかいを訪問した。

当日永寿荘を訪れた、生徒たちは寺町ヤヨイ会の11名のおばあさん達に、子供たちの司会進行による「宇宙船の歌」「汽車は走る」等の歌を唄い、生徒全員出演の劇「かさこ地蔵」を披露し、子供たちは4・5人のグループになり、おばあさん達とカルタとりをしたり、本を見ながら折紙遊びをしていた。訪問された寺町ヤヨイ会の人達も童心に戻り、生き生きと子供たちと共に、楽しいひとときを過ごしていた。また、21日(水)には5・6年生の音楽部員10名が永寿荘を訪れ山屋ヤヨイ会の人達に楽しい音楽を聞かせて帰っていた。事務局の中村さんは「今年になって最初にデイホームかたかいを、訪れてくださった訪問者は2月1日に来て下さった片貝小学校2年生35名のみなさんです。ヤヨイ会の皆さん達は大変喜んでいました。また3月1、2の両日には、片貝小学校3年生の生徒さんたちがデイホームかたかいを訪問してくれます。楽しみにしております。」と語っていた。なお、3月のデイホームかたかいの利用日と地区名、登録人数はつぎのとおり。

（）内は前回利用人数。

1日(木)＝町　裏35名（16名）
2日(金)＝町　裏32名（11名）
6日(火)＝茶　畑20名（13名）
7日(水)＝稲　葉19名（14名）
8日(木)＝屋　敷17名（9名）
9日(金)＝四之町32名（10名）
13日(火)＝四之町18名（9名）
14日(水)＝池　津26名（12名）
15日(木)＝五之町35名（13名）
20日(火)＝山　屋12名（4名）
21日(水)＝鴻　巣18名（13名）
22日(木)＝一之町39名（17名）
23日(金)＝寺　町19名（11名）
27日(火)＝寺　町23名（16名）
28日(水)＝茶　畑20名（13名）
29日(木)＝町　裏35名（16名）
30日(金)＝町　裏32名（11名）

卒業・卒園シーズン来る

今年もまた入学・卒業のシーズンがやってくる。今年度の中学校は12名、小学校は16名昨年度より少ない卒業生となっているが、保育園の卒園児は6名多い。卒業・卒園式の日程と人数は次のとおり。

▽片貝中学校の卒業式は3月9日金曜日（高校入試日は12日(月)）で卒業生は58名（男34名、女24名）
▽片貝小学校の卒業式は3月23日金曜日で卒業生は56名（男22名、女34名）
▽片貝保育園の卒園式は3月24日土曜日で卒園児は44名（男18名、女26名）がそれぞれ未知の世界と旅たつ。

かたかい春秋

どうも中央政界がおもしろくない。KSDからみのゴタゴタは言うに及ばず、総理大臣の言動もおかしい。パールハーバーでの事故第一報の時、何故、すぐにゴルフを止めて職務につかなかったのだろうか。総理が官邸に戻ったからといって、事態が好転するなどと考える国民は少ない筈だ。それでもなお、国民が総理の職務怠慢を責めるのは、〝形〟なのであろう。一国のトップとして、同胞が危急の事態に陥った時、示すべき姿勢がある筈で、それを行なわなかった総理に腹を立てているのではないか。▼このような人物を担がねばならない自民党も、もはや末期症状と言えるのかもしれない。野党もふがいない。野呂田発言を巡る糾弾のしかたは、ミソクソ一緒という感じがする。「日本は占領政策の一環として、戦前の文化や歴史や伝統まで否定しまった」。この発言のどこがおかしいというのであろうか。こともあろうに、この歴史認と同一と思っていた自由党までが、共産党や社民党と一緒になって騒いでいるのであるから、ア然としてしまう。要するに党利党略ばかりで、正義感や是々非々がないのである。▼教科書検定問題についても憤慨している。A大新聞のご注進姿勢たるや、どこの国の新聞かと疑いたくなる。案の定、中国や韓国から抗議が始まった。国は「内政干渉は止めよ」と突っぱねればそれでよいと思うのだが、河野氏や宮沢氏のように、ひたすら謝罪外交に徹する政治家がいては目もあてられない。判断基準はたった一つ。日本の子供達の教育、国益を考えればそれでよいのである。▼さて、腹を立ててばかりいられない。卒業、卒園シーズンである。節目を迎え心新たにする人も多い。

地域の高齢者が先生になって
民具博物室でユニーク授業
民具の名前、使い方を学習する

片貝小学校（福原博夫校長）では3年生55名を対象に「民具学習の会」を去る1月30(火)、31(水)の両日、ヤヨイ大学のお年寄りを講師に招き小学校の民具博物室で開催した。

同校の民具博物室は空き教室利用の一環で、昨年2月25日忍字亭2階広間で開催されたヤヨイ大学教育講座の席上、福原校長が「皆さん方のご家庭にある昔使っていた、生活・農耕・職人用具等の提供を」と広く地域に呼び掛けたところ、各家庭から大小数百点の民具が寄贈された。学校では早速子供たちの学習に役立てようとしたが、子供たちには民具の名前やその使い方がわからない物が多く、「ヤヨイ大学のお年寄りから直接教えてもらおう」と「民具学習の会」が企画されたもので、両日共ヤヨイ大学から10名ほどの人達が講師として来校し、小人数のグループに分かれた3年生の生徒たちに、縄ない機、脱穀機等実演を交えながら説明していた。子供たちは真剣なまなざしで、質問しながらノートに民具の絵を書き、教えてもらった民具の名前と使い方を細かく書きこんでいた。また、ヤヨイ大学の人達は子供たちと別れた後民具一つ一つに名札を付け同校を去っていった。福原校長は「民具学習の会で子供たちが便利でなかった当時の道具を知ることで、その時代と今を比べ考える力を身に付けてほしい、そしてヤヨイ大学の人達と交流することにより地域のお年寄りと子供たちが仲良しになってほしい」と語っていた。

押し花を始めま～す

「今年も4月から押し花サークル水仲花を始めます」と一之町二区の水尾久子さんが13年度新会員を募集している。この催しは昨年4月から毎月一回第3木曜日に行なわれていた催しで、2年目となる今年も、4月19日(木)午後7時30分～9時30分まで片貝公民館2階ホールで開催される。

「昨年経験した人、初めての人、誰でも簡単に出来ます。野の花や、庭の花を押し花にして、大勢の仲間と一緒に、色々なインテリアアート作りに挑戦してみませんか？参加希望の方は☎84－2803（夜間のみ）へ連絡ください。お待ちしています」と水尾さん。

今年も更に減反増える
農家はあきらめムード

平成13年度生産調整配分会議が去る2月3日午前9時からJA片貝町の3階会議室に、JA片貝町管内の農家組合長、生産組合長等約60名が出席して、説明会が開催された。

当日、関広一市長と友田明石組合長は『平成12年度産米が豊作だったことや依然として米の消費が低迷していることに触れ、その対策の一環として、平成13年度の生産調整は需要改善の為、緊急拡大の転作の上乗せはやむをえない措置と考え、国や県からの補助金の追加助成等もあるので、本対策を推進することとした旨の協力をお願いします』と挨拶。

昨年は全耕作面積の25・04％の生産調整面積が義務づけられ、史上最大で農家は大打撃であったが、今年はさらに上乗せされて26・74％。面積にして151・6㌶（昨年141・04㌶）。一律均等に面積が配分される。農家にとっては、さらに死活問題となる状況であることから、かなりの反発や質問が出ると予想されたが、市役所担当者から説明を受けた後の質疑に入っても、発言はなかった。これについて友田組合長は「米余りが大々的に報じられているので、農家の皆さんもこれを熟知。反対してもどうしようもないと、半ば諦めの心境なのでは」と解説していた。

また、これに続けて友田組合長は「幸いJA片貝町管内は、そばと大豆の転作体制が整っているので、そちらに力を入れ、出来るだけ農家の皆さんへの打撃を少なくしたい」と語っている。

その後、JA片貝町とも補償協議会が引き続き開催され、転作の推進上の地区（鴻巣、片貝、池津、五辺、高梨）で100％を達成し、昨年同様、地区のとも補償を実施して行くことが決議された。

ないしょ話し

議員報酬費が5年連続で据え置きとなったという。今の報酬が安いか、高いか、それとも妥当かは意見の分かれるところだ。ある若い友人が「今の報酬でももらい過ぎの議員が大勢いる。ざっと数えただけでも23人中10人はもらい過ぎ」と歯に衣着せぬ論評を加えていた。

当方も「そうかもね」と頷いてしまった次第。今度、新年度から活動費として一人ひと月8,000円が支給されるという。このことについても前述の友人「本当に活動する人には支給すべきだが、自分の会社のための市議活動しかしない人、町内会長の延長線上の人、特定の団体の利益誘導しかしない人、議会に出てくるだけで普段何もしてない人にはやるべきでない。10段階くらいに分けて支給すべきだ」とこれまた歯切れのいい発言をしていた。筆者も大賛成。読者諸氏はどうかな。でもこれは議員の先生方にはないしょ、ですよ。

片貝中が4年連続優勝
三条バスケットボール大会で

第4回三条バスケットボール協会々長杯中学大会（三条バスケットボール協会主催）が2月4日三条市総合体育館で開催され、片貝中学バスケットボール部が優勝し第1回大会から4年連続制覇の快挙を達成した。

当日会場には三条市を中心とした各地から男子12チーム、女子12チーム計24チームが参加して熱戦が繰り広げられた。片貝中は一回戦はシードされ、二回戦から登場し燕中を27対24、三回戦は東北中を28対19と敗り決勝に駒を進めた。決勝戦では田上中を前半28対12とリード、後半もリードをたもち74対20の大差で勝ち会長杯を4年連続獲得した。

大会の結果と優勝した片貝中学校バスケットボールチーム（写真）のメンバーは次のとおり。

①片貝中学校＝黒崎諒、山田貴弘、高野克也、大矢智史、吉井雄介、小林孝広、芝大介、②田上中学校、③東北中学校、③見附中学校

こちらは2位

第17回中学校親善バスケットボール長岡大会（長岡市バスケットボール協会主催）が去る2月12日長岡市南部体育館＝男子12チーム、長岡市北部体育館＝女子12チームの計24チームが参加して開催され、片貝中学校バスケットボール部が準優勝した。

片貝中は一回戦東北中を35対34の一点差で勝ち、二回戦は柏崎東中を46対37、準決勝戦は宮内中を41対27の大差で敗り決勝進出を決めた。決勝戦では小千谷勢同士の対戦となり、片中は谷中に前半16対13とリードしたが、後半は苦戦がしいられ31対42で敗れ準優勝となった。成績は次のとおり。

①小千谷中学校、②片貝中学校、③宮内中学校、③船栄中学校

納豆講演会

JA片貝町ではJA女性部総会記念講演を3月4日(日)午後10時からJA片貝町3階ホールで開催する。講師には株式会社大力納豆社長で新潟県納豆組合理事長の坂詰直枝先生を招き『ピンチがあったら、強くなれました』と題しての講演。また、当日は来場者全員に㈱大力納豆さんが片貝産大豆を使って加工した、特製「納豆」をもれなく進呈。

出前の読みきかせ
片貝小低学年喜ぶ

小学校低学年を主な対象に絵本や紙芝居の読みきかせのボランティア実施の読みきかせの会では、去る2月17日(土)片貝小学校を訪れ、一年生と二年生に読みきかせを行なった。

当日会場となった、片貝小学校二階の図書室に読みきかせの会の会員8名が訪れ9時30分から初め二年生、次に一年生の生徒たちに「ゆきわらし」など、それぞれの学年にむいた絵本を読みきかせしたあと、キーボードの生演奏での効果音をバックに大型紙芝居「いぬとねことゆびわ」を会員がそれぞれの役になって演じ小型紙芝居「いたづらきつね」では一人で色々の役を演じ子供たちを楽しませていた。読みきかせが終了すると一人の子供が立ち上がり「いろいろためになる、お話を聞かせていただきありがとうございました」と大きな声でお礼を言っていた。また読みきかせの会代表の吉井さんが「今年の読みきかせの会のはじまりは、3月20日午後1時30分から片貝支所二階ホールで行いますので、みんなも忘れずに来てくださいね」と呼び掛けると生徒たちは大きな声で「ハーイ」と答えていた。

鴻巣のソバは旨い！
松下電送と交流会

去る2月17日(土)JA片貝町鴻巣支所2階ホールで手打ちソバ講習会が午前10時から開催された。

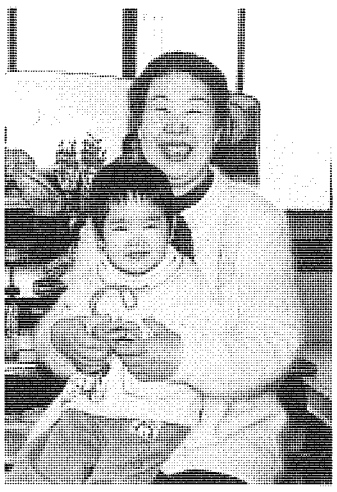
この催しは、JA片貝町の秋の収穫祭に手打ちソバを出し大好評の鴻巣手作りソバ会（山賀健太郎代表）の有志が、親睦と地元ソバのPRを目的に松下電送㈱に、10名限定で呼び掛けて実現したもので、当日はソバ打ち初めての男女7名が地元手作りソバ名人の指導でソバ作りに取り組んでいた。参加者は「ソバ作りは大変むずかしいが、楽しい」と語り、指導の山賀さんは「今回用意した10kgの地元ソバ粉が無くなりました。参加者が作ったソバは各人が家に持ち帰り、私たちが作ったソバをこれから食べながら、若者たちとの交流をはかり親睦を深めたい。今日のソバの出来は初めてにしては、大変良く出来ている」と語っていた。

梅を見ながら酒がウメェー

片貝さつき盆栽会（小宮隆夫会長）では、毎年寒梅の見頃となるこの時期に開催している「梅見の会」を今年も去る2月17日(土)午前11時から忍字亭で開催した。

今年初めて梅見の会の会場となった、忍字亭・松の間には、各会員が一年間丹精こめて育てあげた白梅、黄梅、寒椿、万年青など持ちよった鉢を、参加した15名の会員はじっくりと観賞した後、寒梅を肴に宴会となり梅やさつき盆栽についての談義に花がさき、会場は大変な盛り上がり。小宮会長は「片貝の梅見の会は大正初期の頃、佐藤邸において、鉢植えの梅を見ながら、酒を嗜み、『ほめながら　梅にむかしを　語りかけ』などの俳句を読み、梅見の会に出席した人達の親睦を重ねていた様子が綴ってある、巻絵物が昨年ある旧家から出て来た、文献を見ると片貝の梅見の会は古くからあったのだと思われる」と語っていた。

片貝ヒューマンウォッチング
人権擁護委員の大矢さん



一之町二区の大矢光子さん（63）は、人権擁護委員、読み聞かせボランティアとして活躍している。

人権擁護委員には昨年9月1日になったばかり。人権相談、中学生を対象とする人権講演会と作文募集、小学生と対象とする花運動、一般・女性・高齢者等を対象とする講演会・座談会・映写会などの開催、街頭啓発活動等を主な仕事としている。相談者に信頼感を持ってもらえるよう、秘密厳守は勿論であるが、話しやすい雰囲気をつくることに気を配っている。

読み聞かせボランティアは、昭和63年8月から始めた。吉井会長と共に最初からのメンバーで、随分長続きしていることになる。よい本にめぐり会えた感動は一生の思い出となる筈で、日頃から読書の大切さを実感しているからでもある。ふるさと会館に自主的に集まってくる子供達は、絵本や紙芝居を輝く目で聞いており、その表情の可愛さといったらない、とのこと。

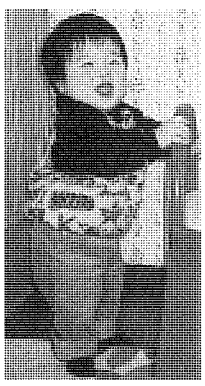
小千谷市本町出身。昭和学院短期大学を卒業して中学校の教諭となった。岩沢中、川口中、越路中、長岡東北中、越路中、片貝中、そして昭和63年東小千谷中を最後に退職した。片貝中の時の教え子が20歳、33歳になると片貝まつりに招いてくれるが、片貝に住んでいてもこれが何とも嬉しい。昨年も33歳の翼進会に招かれ、スタートからお立台で花火が上がるところを見るまでずっと一緒に行動。教え子等が皆心を一つにして、一生懸命になっているのを見て、胸に迫るものがあった。花火も素晴らしく、教え子達も涙と汗と笑顔で、それを見てさらに感動……。

片貝については「とにかく人情の厚いまちで、ありがたく思っている」。

趣味は手芸、美術鑑賞、野山を歩くこと。長岡の県立近代美術館で作品鑑賞をするとストレス解消になるとのこと。娘夫婦は共に教員の教育一家であるが、働き盛りの若夫婦、自分達夫婦、孫3人、それぞれの健康を考えた食事作りに気をつかっている。〝食〟が健康の源と考えているからである。

（写真＝孫の翠ちゃんと）

ハローベイビー



○山口凌太郎（りょうたろう）ちゃん（一之町一区）
パパ英樹さん（32才）
ママ小由里さん（32才）
第2子長男
平成12年2月9日生
現在の体重11kg身長74cm

Q名前の由来
A「凌」はかっこよさ、「太郎」は男らしさというイメージで決めました。

Qお子さんの様子。
A数歩、歩けるようになり、いろんな所によじ登り、たっちをするのが得意です。きかん坊で、時には紗季姉ちゃんを困らせますが、紗季姉ちゃんが大好きです。

Qどんな子に育ってほしいですか
A思いやりと勇気をもった、たくましい子に育ってほしい。